



# CITY



# UNIVERSITY

Vol.29  
February 2019

## CONTENTS

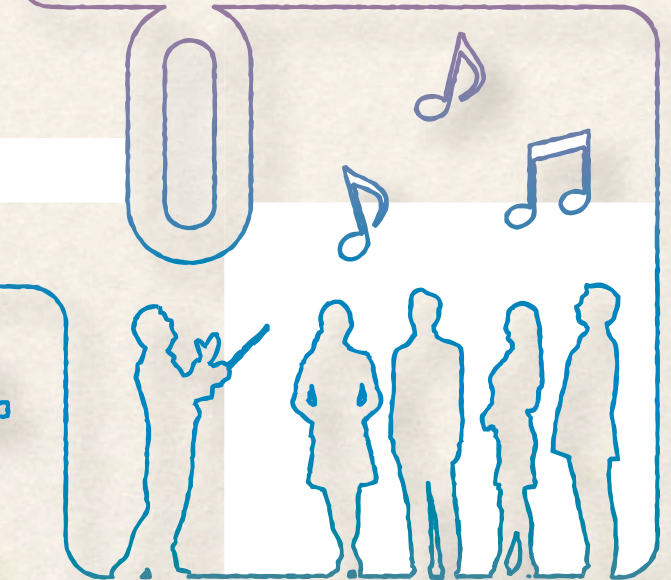
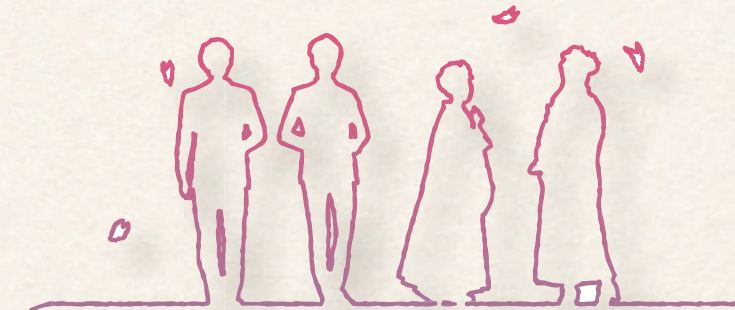
### ●P1 特集

学生自身が課題を発見し、  
解決する力を身に付けるために!

## アクティブ ラーニング@市大

### ●P3

岩澤雄司国際司法裁判所裁判官へ  
「名誉博士」称号を授与しました



### OCU TOPICS

- P4 RESEARCH / 細胞工学研究室(工学研究科)・庄司 哲雄 研究教授(医学研究科)
- P5 RESEARCHERS / 森 久佳 准教授(文学研究科)・松岡 千博 教授(工学研究科)  
南部陽一郎物理学研究所設立・シンポジウム開催
- P6 @キャンパス / 「国立大学 by AERA 2019」に本学が登場  
植物園では全国初! 植物園が「認定希少種保全動植物園」にほか

### OCU INFORMATION

オリジナル純米吟醸酒「月の桂」誕生! / 大学サポーターだより



学生自身が課題を発見し、解決する力を身に付けるために!

# アクティブラーニング@市大

## 商学部 / 宮川ゼミナール

みやがわ ひさお

商学部・宮川壽夫教授のゼミナールはコーポレートファイナンス理論の実証研究を専門にしています。2018年度はNTN株式会社の理論株価算定プロジェクトやダイドーグループホールディングス株式会社の企業分析などで大きな成果を挙げました。

学生は専門書の輪講を進めると同時に資料の収集とデータ分析の手法を学び、チームに分かれ業界を分析することから活動をスタート。理論株価算定プロジェクトでは対象企業や同業他社5社の過去10年分もの財務分析を行い、比較分析レポートを作成。企業を訪問して経営陣にインタビューを行うとともに、生産

工場や研究所を視察するなど現場での企業調査を実施。5年間の予測財務諸表を作成した上で理論株価を算定しました。最終的に分析レポートを携え広報・IR部門ならびに経営企画部の方々に向け報告会を実施し、プロ顔負けの詳細な分析により企業側をうならせました。



大阪取引所を訪問し、市場の現場を見学



ダイドーグループの社長とミーティング



NTN株式会社の桑名製作所を見学

### 宮川教授より

学生にとっては自分たちが勉強していることが空理空論ではないことを知ると同時に、現実の企業経営には計算式で解決するものはなく、固有の特別解が存在することを実体験として学ぶ機会になったと思います。インターンシップの本来の意味としても学生にとって非常に意義のあることだと感じています。



## 経済学部 / 杉田ゼミナール

すぎた なほ

経済学部・杉田菜穂准教授のゼミナールでは、同世代の若者が今後直面していくことになるライフイベントに関係する社会政策や労働政策について、遊んで学べる「ワーク・ライフ・すごろく」を開発しました。この企画は、ゼミ生自身が労働政策について学ぶ中で、社会人としての生活が迫っているにも関わらず将来のことについて、例えば労災保険や育児休業制度などをよく理解していないことに思い当たり

考え出したものです。

すごろく完成後ゼミ生は大阪府立豊中高等学校を訪問、実際に2年生にすごろくを体験してもらい、すごろくに登場した労働政策について解説、寄せられた質問に丁寧に答え、高校生のキャリア教育に協力しました。



ライフイベントが満載のすごろく



すごろくを体験しながら知識を確認



すごろく体験後は労働政策について質疑応答

### 杉田准教授より

このすごろくには、「より早い段階で、ライフデザインに関心を持つこと」「より早い段階で、働くことに興味をもつこと」の大切さを伝えたいという学生さんたちの思いが詰まっています。「すごろくを使って気づきを引き出す」というユニークなアイデアに基づくこの実践は、専門家や先生によるキャリア教育を補える何かを生むことができるような気がしています。





今や大学教育においても当たり前となった「アクティブラーニング」。  
では、本学ではどんな授業・プロジェクトが実際に行われているのか、  
学生自身が主体的に取り組む3例を紹介します！



## 生活科学研究科・生活科学部「そらのま」プロジェクト

生活科学研究科・生活科学部では、和歌山紀美野町にある築100年以上ある古民家を、集落と大学をつなぐ拠点「そらのま」として再生させる取り組みを行っています。物件を選ぶところから始まり、建具や床などの修理から間取りのデザインまで学生自ら考え、リノベーションを実行しています。

そらのま全景



まず図面上でプランニング



建具の修理中



かまどづくり

中心メンバーの熊本崇人さんと  
田中大貴さん(前期博士課程1年生)の話

左より熊本さんと  
田中さん



事前に図面で考えていても、実際現場で作ってみると思い通りにならないことも多々あります。でも自分達で考えたデザインを形にしていくのは楽しく、学生の間で古民家でDIYを体験できることは貴重です！

西川教授より

「集落と大学をつなぐ」

150年前、全国津々浦々、山の奥地にも学ぶ子どもの姿がありました。ところが今は人口3倍なのに廃校だらけで耕作放棄地は森に戻りつつあります。グローバル化の中で人の暮らしはどうなるのか。学生たちが山里で地元の農業を支援しながら幸福のあり方に思考を巡らせる、そんな基地局作りのために、皆で古民家を集落と大学をつなぐ生活科学部セミナーハウスに再生しています。



i n f o r m a t i o n

## 2019年度より100分授業が始まります！



2019年度より、杉本キャンパスおよび阿倍野キャンパス医学部看護学科における1時限あたりの授業時間を100分に変更します。

授業時間を100分とすることで、反転授業やアクティブラーニングの導入などによる授業方法の転換を促進し、学生の皆さんが自ら思考する授業を通じて、より充実した学修ができるようになることを目指します。

また、授業時間の変更にとまない、授業時間帯を右の表のとおり変更します。

【新授業時間帯】

	杉本キャンパス	阿倍野キャンパス 医学部看護学科
第1時限	8:55~10:35	8:55~10:35
第2時限	10:50~12:30	10:45~12:25
第3時限	13:20~15:00	13:20~15:00
第4時限	15:15~16:55	15:10~16:50
第5時限	17:10~18:50	17:00~18:40

※なお、阿倍野キャンパス医学部医学科および梅田サテライトの授業時間ならびに授業時間帯については変更ございません。



# 岩澤雄司国際司法裁判所裁判官へ「名誉博士」称号を授与しました



2018年12月17日(月)、学術情報総合センター10F大会議室において、岩澤雄司国際司法裁判所裁判官への「名誉博士」称号授与式が開催され、荒川学長より名誉学位記が授与されました。

また岩澤氏には授与式後、法学部で国際法を学ぶ3年生3名との懇談会にも出席いただき、現在の仕事から本学在籍時の思い出、国際法についてや国際機関で働く上で心がけていらっしゃるなどを語っていただきました。

2018年6月、小和田恆氏に続き日本人として4人目の国際司法裁判所裁判官に選任されました岩澤氏は、1982年4月に本学の助教授に着任されてから1996年4月に東京大学に移籍されるまで、14年間にわたり本学で教育・研究に貢献されました。その間刊行された『条約の国内適用可能性』(1985年)や『WTO(世界貿易機関)の紛争処理』(1995年)は何れも日本の国際法学の必読文献となっています。また、自由権規約委員会の委員・委員

長やアジア開発銀行の行政裁判所裁判官等として国際的に活躍。国内では法務省難民審査参与員や内閣府の「第三国定住有識者会議」座長など、社会活動にも大きく貢献されています。国際司法裁判所裁判官への選出は、岩澤氏のこれまでの取り組みが国際法学者として世界で認められた証であり、本学はこれらの功績が名誉博士に値するものとみなし、2018年9月27日に岩澤氏に称号授与いたしました。

## 法学部学生との懇談会 岩澤先生への Q&A

### Q 国際司法裁判所裁判官としての活動について

**A** 2018年6月22日に国連の選挙で選出され、オランダのハーグにある国際司法裁判所に赴任し、15人いる裁判官の一人に加わりました。国際司法裁判所の主な仕事は二つあります。一つは国家と国家の紛争を処理して判決を出すという仕事、もう一つは国連の主要な司法機関として、国連の他の機関に対して勧告的意見という助言を出すという仕事です。

**Q** 岩澤先生は1982年の4月から東京大学に移られるまでの14年間、本学の助教授として研究・教育に貢献されました。本学在籍時、特に印象深かったことは？

**A** 市大は自由闊達な雰囲気の中、先生方が研究や授業に熱心に取り組んでいらっしゃいました。年上の先生ばかりでしたが、皆さん私を一人の研究者として尊重し対等に扱ってください、のびのびと研究ができました。特に市大法学部の教員は結束が強く仲が良かったので、非常に居心地がよかったです。私の主な業績は市大時代のもので、よい環境に恵まれてとても充実した

研究ができました。

大阪は非常に新鮮で異文化体験が楽しかったです。特に大阪のお笑いの文化から笑いの重要性を学び、国際司法裁判所の選挙運動中のレセプションで行ったスピーチはたくさん笑いを取って好評でした。

**Q** 22年ぶりに本学に来学いただき、当時と比べ印象はいかがでしょう？

**A** 私が赴任したときには法学部がまだ今の学長室がある建物にありましたが、建物はそのままです。キャンパスは大きく変わりました。杉本町の駅に行く通りも随分整備されてきれいになっていました。ヤンの木がなくなっているのはびっくりしましたけれど、時計台や生協は前のままですから、懐かしかったです。学生運動の立て看板がないのも驚きましたね、昔は一杯ありましたので。

**Q** 国際司法裁判所裁判官という仕事のやりがいとはどのように感じていますか？

**A** 国際司法裁判所は国際社会での非常に重要な裁判所で、国際法の解釈に大変貢献していますし、国際法を作り出している面もあります。裁判所の人間としてはそういうことも意識しながら仕事に取り組まなければならないと思っています。具体的に扱う事案の多くは国家間の紛争ですが、それをうまく解決すれば、紛争の解決や平和の維持に貢献でき



るという意味でもやりがいのある仕事だと思っています。全力を尽くして頑張っているところです。

**Q** さまざまな国籍、専門の方が集まる国際機関で心がけていらっしゃることはございますか？

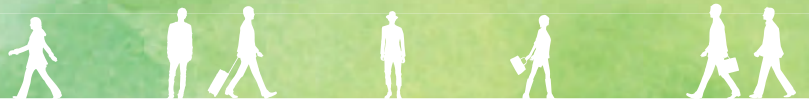
**A** 18人の委員がいる国連の自由権規約委員会の仕事を10年以上、委員長を2回務めました。他の委員からの信頼を得るためにも、物事に真剣に誠実に取り組むという真摯な姿勢がとても大事だと思います。国際的な仕事をしていると、国籍や文化、育った環境もバラバラという中で、グループで何かを成し遂げようとするときには、相手のバックグラウンドも理解し協力してやっていかなければなりません。そこで、「和」がとても大事です。日本の文化の特性である「和」の精神を発揮できると、国連の中で重要な役割を果たすことができます。

委員長になったときに、ある中東の大使に「架け橋になってくれますね」と言われました。国連で日本は、アジアの国ですが、西洋的な法律制度を持ち先進国でもあるので欧米の国と足並みを揃えることもできる。いろいろな意味で架け橋になります。日本人だからこそ出来るのがたくさんあります。そういうことを意識して、皆さんも将来大いに活躍してほしいと思います。



左より本川万里絵さん、胡宮健人さん、岩澤雄司名誉博士、林風花さん





RESEARCH

世界最高レベルの吸着力を誇る  
生物吸着材料を開発  
～パン酵母×食品添加物～



東教授(左)と尾島講師(右)

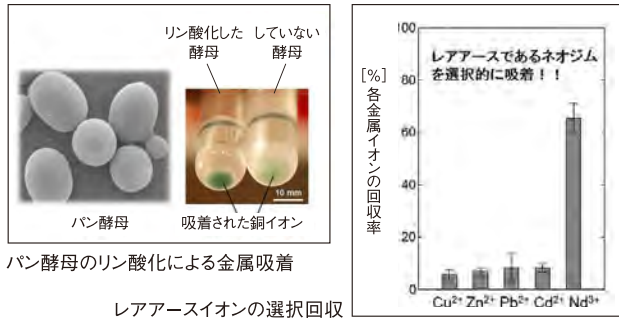
日本には多くの都市鉱山資源が蓄積されていますが、効率的な資源利用社会を実現するためには、環境に負担をかけずに低コストで都市鉱山に眠る金属の回収を可能とする技術が求められます。これまでも発酵生産過程で発生する余剰酵母などが、環境への負荷が少ない生物吸着材料として用いられてきましたが、イオン交換樹脂などの無機材料と比べると吸着効率が低いという課題がありました。

そこで、工学研究科化学生物系専攻 尾島由紘講師、東雅之教授らの研究グループは、都市鉱山からのレアアース回収や水中に含まれる有害重金属の除去に関わる新たな技術を開発しました。

同研究グループでは、これまでもパン酵母やトルラ酵母などを用いた生物吸着材料の検討を行っていましたが、本研究では、パン酵母をリン酸化し

た結果、レアアースなどの高価な金属を選択して吸着でき、かつ世界最高レベルの吸着力を持つ生物吸着材料を開発することに成功しました。

日常私たちが食しているパン酵母と食品添加物の組み合わせから、高い金属吸着能を持つ安価で安全な材料が生まれた本研究結果を応用することで、パン酵母が資源回収や環境浄化に役立つ日が来るかもしれません。本研究成果は、国際学術誌「Scientific Reports」に掲載されました。



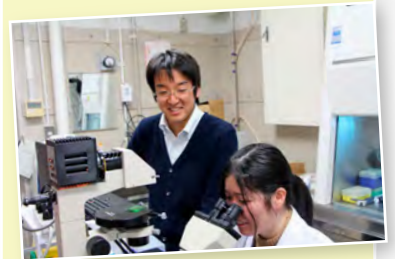
パン酵母のリン酸化による金属吸着  
レアアースイオンの選択回収

研究室 クローズアップ



工学研究科 細胞工学研究室

東教授、尾島講師らが所属する細胞工学研究室では微生物の新しい機能の発掘と薬剤開発や環境・食品分野への応用を目指しています。3分の1以上が女性で、研究室の仲が非常に良いのが特徴。年に一回の研究室旅行やバーベキューの他、パンやチーズ、鮎すしなど、一人一品発酵食品を持ち寄る「発酵パーティー」や、関西の微生物研究をしている10大学が集う「発酵野球大会」など、細胞工学研究室ならではの企画も盛りだくさんです!



これまでの定説を覆す成果! 透析患者に  
活性型ビタミンDを投与しても心血管リスクは  
低下しないことが明らかに



庄司哲雄研究教授

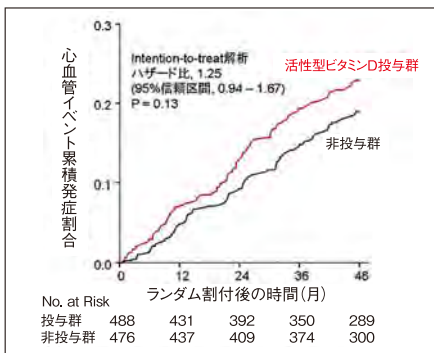
透析患者では心血管疾患を引き起こすリスクが著しく高く、その予防方法が求められています。これまでの研究で、血圧やコレステロール管理を行っても心血管リスクは低下できないことが示されており、骨ミネラル代謝異常の是正が有効であると期待されていました。

そのような中で、活性型ビタミンD使用中の患者は使用していない患者と比較して、死亡

率、心血管死亡率、心血管疾患発症率が低いという観察コホート研究\*が多数報告され、ビタミンDは「長寿ホルモン」ではないかと考えられるようになり、ランダム化比較試験による確認が求められていました。

そこで医学研究科血管病態制御学の庄司哲雄研究教授、代謝内分泌病態内科学の稲葉雅章教授らの研究グループは、全国108施設の976名の透析患者(20～80代の男女)を活性型ビタミンDを投与するグループ、非投与の2群にランダムで割り当て、その後4年間追跡を行いました。

その結果、予想とは反し、活性型ビタミンDを投与した透析患者の心血管リスクは低下しない(むしろ上昇傾向)ことが明らかになりました。4年間の追跡率は97.9%と非常に高く、信頼性の高いデータといえます。本研究成果は国際的認知度が高く、世界五大医学雑誌の一つでもある『JAMA』に掲載されました。



研究者 メッセージ



医学研究科 庄司 哲雄 研究教授

学生時代は市大オケ、チェロの虜になりました。音楽仲間と行き帰り、交響曲の各パート、歌ってハモると気持ちイイ。杉本町から天王寺、医学の道は厳しいな。研修医から大学院、結婚、子連れで海外へ。診療、研究、多忙だな。なせばなる、なさねばならぬ何事も。何をなすが大切だ。もっと気力と体力を。人ごとではない認知症。恋に学びに研究に、とことん命を燃やそうぜ。そしてつなごう、次世代に。熱き心を伝えよう。人工知能にゃ分かるまい。桜花爛漫月朧。

\*コホート研究…研究対象となる疾患にかかっていない人を大勢集め、長期間追跡を続けることで、ある要因の有無と病気の発生の関係性を調査する研究のこと。必ずしも因果関係を証明するものではない。



RESEARCHERS

もり ひさよし  
森 久佳 准教授 文学研究科

森准教授の専門分野である「教育方法学」は、「どのように」といった狭義の教育技術・技法だけでなく、「何を」、「誰が」、「どのような環境や状況で」学ぶ／教えているのか、といった幅広い事象を対象としています。また、教育を行う場は家庭や地域などにも及ぶので、教育方法学はそうした多様な教育の場を念頭に置きながら、哲学や歴史学、社会学といった他の専門領域の研究的知見を援用する志向性も非常に高い学問分野だと言えるそうです。

森准教授の研究生活は、大学院時代の指導教員から紹介されたシカゴ大学の附属学校(哲学者のJ・デューイが開設に携わった学校)の実践

を教育方法学の観点から理論的・歴史的に研究することから始まりました。同時に、その頃から現役の先生たちが主催する研究会に今も定期的に参加し続け、授業やカリキュラム開発等の実践的な営みについて学ぶ機会に恵まれているということです。また、幼稚園教諭・保育士を養成する大学に勤務したことで幼児教育・保育の領域にも研究関心が広がり、現在では、教師教育に関する国際的動向を踏まえた教員研修の効果測定に関する研究や、複数の自治体のプロジェクト等への参画を通して、学校と地域との関係を視野に入れた教育に関する研究も展開しています。



◆アナザーサイド

人との「出会いと対話」を大切にしていると話す森准教授。私生活での経験も研究に大いに役立っているようです。最近では小学校のPTA会長も経験し、それまで外側から見ていた学校を内側からも見ることができ、学校や教員が抱える問題や学校と地域の関わりなどに新たな気づきが多かったそうです。お休みの日は家族との時間を大切に、一緒に出かける美術鑑賞や映画鑑賞によりお子さんの想像力がさらに広がるのが楽しみとのことでした。

まつおか ちひろ  
松岡 千博 教授 工学研究科

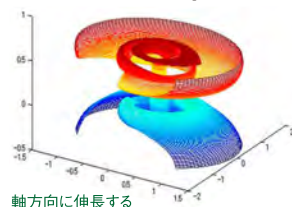
松岡教授の専門は非線形解析やカオス力学。言葉で聞いただけではイメージしづらいですが、非線形現象の身近な例としては、台風などの気象現象や風の影響による砂丘の模様形成、雪の結晶のパターン変化などが挙げられます。このような規則性のないものを予測しようとすると、二次方程式や三角関数など中学や高校で習う数学のような手計算では不可能なため、コンピュータを使って計算し解析していきます。特に松岡教授がこだわっているのが、グラフや図など結果のビジュアル化。「渦」が大好きということ、渦の渦に代表されるような

伸び縮みする渦も下図のようにグラフ化しています。(実際は渦が出来る様子がわかる動画になっています。)

また、昨年の台風21号発生時、強風で壁に叩きつけられ重傷を負い、身をもって風の威力を思い知った経験から、最近では風の力の解析に燃えているそうです。

応用数学を学生に指導している立場からは、現在のコンピュータはプログラミングの知識がなくても使えるけれども、工学部の学生にはそれに甘えることなく、プログラミングが出来るようになってほしいということでした。

Swirl flow (竜巻、鳴門のうず)  
内側の流体: 外側より重い(g: r-方向)



軸方向に伸長する



◆アナザーサイド

小さいときから絵を描くことが好きで、絵画コンクールなどでも何度も受賞経験のある松岡教授は一時本気で画家を目指していたそうです。たまたま中高時代に所属していた美術部にレベルの高い人が多かったため自分の限界を感じ、美術以外で好きだった数学・物理を学ぼうと理学部に進むことに。京阪神は美術展が多く開催されるので嬉しいけれども、忙しくてなかなか時間が取れないのが悩みということでした。

INSTITUTE

シンポジウムの模様

南部陽一郎物理学研究所設立・シンポジウム開催

2018年11月1日(木)、本学は特別栄誉教授・名誉教授である南部陽一郎博士の2008年ノーベル物理学賞受賞10周年を記念し、「南部陽一郎物理学研究所」を理学部棟内に設立しました。

また、12月12日(水)・13日(木)には、学術情報総合センターにおいて国際シンポジウムを開催。理論物理学および実験物理学の各分野

において活躍する著名な国内外の一流研究者を講演者として招待し、「素粒子・核物理学における対称性の自発的破れ」およびそれに関連する現代物理学の最新の動向と今後の展開について議論しました。シンポジウム初日には南部博士のご子息である南部潤一氏によるスピーチの時間も設けられ、研究面とはまた異なる南部博士の横顔を知ることができました。



その他12月16日(日)には、理学部棟においてキッズセミナー「なぜ磁石がつくの?」を、また田中記念館において市民向け講演会「宇宙の謎を解く鍵 一南部先生が見つけたもの一」を開催。小学生(高学年)から大人まで、広く一般の方に南部博士の研究とその発展形について理解を深めていただきました。

【南部陽一郎物理学研究所(NITEP)】 Nambu Yoichiro Institute of Theoretical and Experimental Physics(NITEP)

南部博士が専任教授として教鞭を取り、研究活動を行った国内唯一の大学として、南部博士の名を冠した研究所を創設。理学研究科・糸山浩司教授を所長に主要研究テーマとして「対称性とその破れ」が導く普遍性と創発性の物理探求」を掲げ、「対称性の自発的破れ」を軸に、現代物理学の支柱をなす素粒

子、原子核、宇宙、物性物理にまたがる横断的研究を理論・実験両面から推進します。

今後は、高度で国際的な研究活動の推進と若手研究人材の育成を可能とする研究環境を整備し、国内外から優れた研究者が集まる国際共同研究拠点の形成を目指します。





## 「国公立大学 by AERA 2019」に本学が登場

2018年10月29日(月)、AERAムック「未来を変える大学選び 国公立大学 by AERA 2019」(株式会社朝日新聞出版発行)に本学が掲載されました。全国13の国公立大学の掲載があり、本学は「知の最前線」特集に理学研究科宇宙線物理学研究室や上方文化講座、学生の取り組み等が紹介されています。ぜひご一読ください。



## 植物園では全国初! 植物園が「認定希少種保全動植物園」に

2018年12月17日(月)、理学部附属植物園が環境省より認定希少種保全動植物園に認定されました。絶滅の恐れがある野生動植物の種の保存に関する法律(以下「種の保存法」)の改正により、2018年6月から認定希少種保全動植物園等制度の運用が開始され、希少種の保護増殖が進められています。当園では、「種の保存法」に該当する植物のうち「アラゲタデ」「ダイトウサクラタデ」「アガヴェ・パルヴィフロラ」の3種を保有しています。



植物園Webサイト



アラゲタデ



ダイトウサクラタデ



アガヴェ・パルヴィフロラ

## 在宅看護学の必須テキスト執筆陣に 市大の関係者15人が集結!

2018年12月に発行された『強みと弱みからみた在宅看護過程+総合的機能関連図』(医学書院刊)。多くの看護学生が手に取る学習書の執筆を看護学研究科の教員・修了生等が担いました。本書は、医学部看護学科在宅看護学領域独自の実習メソッドを反映させた内容になっており、暮らしの場において療養する人々を支援する在宅看護について体系的に学ぶことができます。



## 盗撮犯逮捕に協力! 彦根署より感謝状が贈呈

2018年12月26日(水)、滋賀県彦根警察署において経営学研究科博士課程1年生の高浜快斗さんへの感謝状の贈呈式が執り行われました。高浜さんは11月25日(日)、駅伝に参加するために通った彦根駅で、女子高生が盗撮されていることに気が付き、犯人を追いかけ確保、現行犯逮捕に協力しました。山崎勉署長からは「大変勇気ある行動に感謝する」とのお言葉をいただきました。



山崎署長より感謝状の贈呈



## 大阪・関西万博に向けて、学生たちが活動開始!

2018年1月31日(木)、2025年大阪・関西万博に向け本学学生と大阪府立大学生が合同勉強会を実施し、両大学がどう貢献できるかについて第1回目の討論を行いました。

今後は両大学・高専の研究シーズを生かし、自治体や企業のサポートを得ながら、ブースや展示コーナー、ひいてはパビリオン構想などに発展していくことを目指します。



合同勉強会の模様

## 日本拳法部大活躍!



第63回全日本学生拳法選手権大会出場メンバー

2018年11月25日(日)、第63回全日本学生拳法選手権大会が開催され、日本拳法部が男子・女子共にベスト8の成績を収めました。また、12月16日(日)に開催された第24回日本拳法百虎会優勝大会(日本拳法個人戦トーナメント)では、男子初段の部で準優勝、女子有段の部・段外の部で共に3位と目覚ましい活躍が続き、部員一同来年度もさらに上を目指すと意気込んでいます。



## ❖ オリジナル純米吟醸酒「月の桂」誕生!

理学部・田中俊雄教授と京都市産業技術研究所により開発された酵母「京の華」を使用し、京都伏見最古の酒造「月の桂」にて醸造され誕生した本学オリジナル純米吟醸酒です。

今回、文学部「表現・表象文化論演習Ⅱ」(文学部・菅原真弓教授担当)でアートマネジメントを学ぶ学生が中心となり、オリジナル日本酒のプロモーションを実施しています。2018年10月から、日本酒販促のコンセプトについて検討を続け、ラベルやボトルについても「自分たちと同時代の若者たちが手にとりやすいデザイン」を意識しました。

本学生協での販売に先立ち、本プロジェクトの周知と大学のブランディングを目標としたクラウドファンディングを実施しています。ご支援いただきますようどうぞよろしくお願いいたします。



クラウドファンディングはこちらから↓



2019年3月22日18時まで受け付けます。ただし、予定数に達した場合、募集は終了します。

※飲酒は20歳を過ぎてから。飲酒運転は法律で禁じられています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。

## 大学サポーターだよ

お問い合わせ 大学サポーター交流室

TEL:06-6605-3607

E-mail: supporter@ado.osaka-cu.ac.jp

平素より「大阪市立大学夢基金」や「大阪市ふるさと寄附金」に、ご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。

「大阪市立大学夢基金」では、ご寄附いただく際に寄附者の意向を反映できるよう、寄附の目的をお選びいただけます。このたび新たに次の2項目を追加いたしました。これらの目的につきましても趣旨をご理解いただき、お力添え賜りますよう、お願い申し上げます。

ご協力よろしく  
お願いいたします。



学長: 荒川哲男

### 「創立140周年記念事業」のために

本学は2020年に創立140周年という節目を迎えます。この記念すべき年にハード・ソフト両面にわたる周年事業を盛大に展開し、本学のさらなる教育・研究環境の整備と内外への魅力発信を行います。  
～140周年記念事業例～

1号館講堂・前庭、学生ホール等のリニューアル、全天候型グラウンドの整備、大学史資料館構想の推進、大々的な記念イベント・祝賀会の開催など

### 「理学部附属植物園」の充実のために

理学部附属植物園にかかる研究・教育環境の充実、来園者の快適性の向上に向けた施設の整備・補修を行います。また、昨年環境省より植物園としては初めて認定された認定希少種保全植物園(P6参照)として設備の充実を図ります。

### 大阪市立大学夢基金

寄附の目的として左記の2項目を含め次の9項目の中よりお選びいただけます。

#### TOP1「創立140周年記念事業」のために

- 1「大学の発展」のために
- 2 課外活動支援の充実のために
  - 2-1「課外活動施設」の充実のために
  - 2-2「課外活動団体」の発展のために
- 3「全天候型グラウンド」の整備のために  
(TOP1の内容にもございますが、この目的に絞る場合ご選択ください。)
- 4「グローバル人材の養成」のために
- 5「社会連携」のために
- 6「医療・保健推進」のために
- 7「理学部附属植物園」の充実のために



オープンキャンパスでの前庭活用例

お申し込みなど詳しくは  
本学Webサイトをご覧ください。

大阪市立大学 夢基金

大阪市立大学広報誌

# CITY UNIVERSITY

vol.29

発行: 公立大学法人 大阪市立大学  
企画・編集: 法人運営本部 広報室  
デザイン協力: desk  
発行日: 2019年2月

本誌に関するお問い合わせ・ご意見・ご感想は  
大阪市立大学 法人運営本部 広報室  
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138  
e-mail: t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp

本誌に掲載の写真および原稿の無断転用を禁じます



大阪市立大学  
OSAKA CITY UNIVERSITY

#### 杉本キャンパス

商・経・法・文・理・工・生活科学 各学部・各大学院研究科  
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

#### 阿倍野キャンパス

医学部・大学院医学研究科・大学院看護学研究科・医学部附属病院  
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

#### 梅田サテライト

大学院創造都市研究科・大学院都市経営研究科  
文化交流センター  
〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階

<http://www.osaka-cu.ac.jp>